

ガーデニングの基本

倉 ひとみ

〈用土〉

- 「よい土」
- ① 通気性がよい
 - ② 排水性(水はけ)がよい
 - ③ 保水性がよい
 - ④ 保肥性がよい
 - ⑤ 有機物をほどよく含む
 - ⑥ 軽すぎず、重すぎず
 - ⑦ 酸性にもアルカリ性にも偏らない
 - ⑧ 清潔で異物が混ざっていない

赤玉土 7 無菌の弱酸性用土、通気性・保水性・保肥性に富む

腐葉土 3 落葉広葉樹の落ち葉を腐熟させたもの、通気性・保水性・保肥性に富む

鹿沼土 軽石質の火山砂礫が風化した黄色の酸性土、通気性と保水性が高い

川砂 花崗岩から生じた灰白色の砂、通気性がよい

バーミキュライト ひる石を高温処理し、元の容積の10倍以上に膨張させたもの
非常に軽く、保水性と保肥性に富み適度な通気性もある

パーライト 真珠岩を細かく砕いて高温高圧で処理した、多孔質で非常に軽い人工砂礫
通気性、排水性にすぐれる

日向土 黄褐色の軽石、通気性が非常によく、保水性もある

ピートモス 湿地の水ゴケ類が堆積して泥炭化したもの、弱酸性でほぼ無菌

水苔 湿原の水ゴケを乾燥させたもの、保水性が高い、よく乾燥したものはほぼ無菌

堆肥 バークチップを醗酵させたバーク堆肥

牛ふんを醗酵・乾燥させた牛ふん堆肥

わずかに肥料分を含んでいるが、植物を生育させるに足るほどの量ではないので
肥料は別に施す

〈肥料〉

無機質(化学合成)と有機質(天然物)

速効性と緩効性、遅効性

三要素 窒素(N) 葉や茎を成長させる養分

リン酸(P) 開花や結実を促す養分、また根の成長も促す作用も持つ

カリ(K) 根やくきを丈夫にし、各部分の成長を良好に保つ働きをする

中量要素 カルシウム、マグネシウム、イオウ

微量元素

元素	主な生理機能	主な欠乏症状
マンガン(Mn)	光合成における二酸化炭素の固定に必須 葉緑素などの形成に関与	鉄欠乏に似た葉脈の黄化 生育不良や生育遅れ着花不良 病害発生
ホウ素(B)	たんぱく質の合成、細胞分裂 根の伸長に関与開花 着花の種子の形成に関与	茎や成長点の死 根の伸長不良や根腐れ 開花、着花の不良
鉄(Fe)	葉緑素の形成に関与	若い葉から葉脈間の黄化または白色化 過度の欠乏では葉脈も黄化 生育不良や生育遅れ
銅(Cu)	葉緑素の形成に間接的に関与 炭水化物やたんぱく質の代謝に重要 成熟成長期に必要	果樹の枝枯れ 若いシュートの萎縮、先端の死 葉の黄化
亜鉛(Zn)	たんぱく質の合成、種子の形成に関与 成長速度に影響 酸化還元要素の活性化に関与	成長不良。節間の伸長不良 古葉から葉脈間の黄白色化 細根の発育不良
モリブデン(Mo)	マメ科植物のチッ素固定に関与 たんぱく質などの合成に関与 各種の酸化酵素の構成元素	葉の萎縮症状や変形 葉脈間の黄化 矮性化
塩素(Cl)	でんぷんなどの合成に関与するほか、光合成に関与するとされている	葉の黄化、葉の先端のしおれ

肥料の要求度	成長の速さ	生育期間	花数	主な植物
多く必要とするもの	速い	長い	多い(または花期が長い)	ゼラニウム、ペラルゴニウム、ポットマム、ポインセチア、ハイドランジア、セントポーリア、ラナンキュラスなど
中ぐらいの量でよいもの	中ぐらい	中ぐらい	中ぐらい	ブーゲンビレア、アサガオ、ボタン、バラ、ウメ、アマリリス、チューリップ、カラシコエ、キンセンカ、パンジー、フクシア、シクラメン、クンシラン、アザレア、シンビジウムなど
少ない量でよいもの	遅い	短い	少なめ	ヒメシャクナゲ、ツバキ、サザンカ、カルミア、サギソウ、オモト、一歳ザクロ、アナナス類、アンズリウム、カトレア、デンドロビウム、ファレノプシスなど

〈花の手入れ〉

定植直後はたっぷりと水を与え、それ以降は乾かしぎみに管理する

咲き終わった花がらは、摘み取る

株が暴れすぎたり、花がほとんど咲き終わってしまった場合などは、株の上～1/3 を切り

戻して追肥を施す

病害虫対策を早めに

清潔さを保つこと

風通しと日除けを図ること

土の状態を観察すること

初夏に植えつける植物

初夏咲き草花	イソトマ、トレニア、ナスタチウム、ロベリア
夏の暑さに強く秋まで咲く 草花	アゲラタム、アブチロン、アメリカンブルー、インパチェンス、 ガイラルディア、カラミンサ、コリウス、サルビア、ジニア、 センニチコウ、ニチニチソウ、ハイビスカス、ブルーファンフラ ワー、ベコニア、ペチュニア、ペンタス、ポーチュラカ
斑入りなどの観葉植物 (日陰での利用におすすめ)	アンズリウム、カラジウム、シンゴニウム、プレクトランサス

梅雨に強い植物

アジサイ、タチアオイ、ツユクサ、ドクダミ、ハナショウブ、ホタルブクロ

〈MEMO〉